number 6
2016 summer

CHIBA UNIVERSITY

博士課程教育リーディングプログラム
免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム

NEWS LETTER

10 Leaders Innovative Therapeutics Chiba University

LGS LEADING GRADUATE SCHOOL AT CHIBA UNIVERSITY

第４回全国博士課程教育リーディングプログラム学生会議

第４回学生会議（広報担当）：LGS３期生　薄田 健史

平成28年７月８日（金）～10日（日）まで、千葉大学・筑波大学の学生主催で、幕張メッセ国際会議場において「第４回全国博士課程教育リーディングプログラム学生会議」を開催しました。

参加者は、いずれもこれからの日本、ひいては世界を牽引していこうとする自覚を持った博士課程学生で、全国より約300名が集まる会議となりました。過去に兵庫・熊本・北海道と３回開催された学生会議ですが、４回目の今回は、過去最長（３日間）かつ過去最大規模（参加者 約300人）にて開催しましたが、我々がコンセプトとして掲げたまさに「祭」のごとく大変充実し、有意義なものとなりました。

創出型ワークショップでは、“Funny”で全く新しい“Innovation”－“Funnovation”を創出したイノベーターになりきり、Forbes JAPANに掲載されたという想定で、その記事作りを行いました。国籍も専門分野も全く異なる学生達が、本気で知識とアイデアを駆使・融合させ、実現可能性や市場のニーズも考えながら多くのFunnovationを生み出しました。

また、（1）アステラス製薬株式会社 代表取締役社長CEOの畑中好彦様、（2）帝人株式会社 代表取締役社長執行役員の鈴木純様、（3）第57次南極地域観測隊 隊長の門倉昭様の３名の各界のリーダーによる講演より、リーダーに必要な資質を学ぶ機会を得ることができました。

そして、会議の最後には、森本侑樹実行委員長（１期生）から、グローバルリーダーとして世界の課題に挑戦していくという決意が表明された“Makuhari Protocol（幕張議定書）”が宣言されました。本会議を通じて、リーディングプログラム所属学生をつなぐ大きな輪をまた一回りも二回りも大きくすることができたのではないかと感じております。

お問い合わせ先
CHIBA UNIVERSITY
千葉大学医学部リーディング大学院事務室　TEL.043-226-2817
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻 1-8-1　lgs-jimu@chiba-u.jp

News Letter
number 6
■発行日／2016年8月

理研サマープログラムについて

LGS４期生　一色 佑介

理研サマープログラムでは、免疫関連の基礎研究を行っている世界中の学生たち（主に博士課程の学生）が理化学研究所に集まり、４日間にわたってともに学び合います。プログラムの内容は大きく分けると講義と学生自らの研究内容発表の２つに分けられています。講義では日本だけでなく世界各国から著名な研究者が来日され、およそ10種類の免疫関連のトピックスについてのレクチャーが行われます。多くは基礎的な内容ですが、一部の講義では臨床的な内容と絡めた基礎研究の講義も行われており、幅広い内容を学ぶことができます。学生発表では自らの研究に関する口頭での発表とポスター発表の両方が行われます。ほとんどの研究内容はリンパ球の分化や制御性Ｔ細胞に関する研究など基礎的な内容ですが、いずれも研究内容は非常に高度であり、世界の学生たちのレベルの高さを実感することができます。このプログラムで行われる内容を完全に理解するには免疫系の基礎研究のバックグラウンドがないと難しいと感じましたが、私のようにバックグラウンドを持たない人間でも勉強になる内容が多く含まれており、これから本格的に基礎研究を始めるような人にもいい刺激になると思います。また日本にいながら世界各国の同年代の学生たちとともに過ごせる機会は非常に貴重であり、彼らの考え方や姿勢を肌で感じることができたのはとても良い経験になりました。とても良い機会ですので、まだ参加されたことのない学生にも是非参加を勧めたいです。

リーディング大学院説明会

LGS２期生　井出 真太郎

2016年６月11日（土）に、来年度の大学院入学希望者を対象として、リーディング大学院説明会を開催しました。この説明会は、初めての試みであり、副題を「亥鼻からの挑戦～グローバルリーダーを目指して～」と設定し、リーディング大学院の活動内容を多くの人々に広報すると同時に、リーディング大学院への興味を持っていただくことで、来年以降の優秀な人材を集めることを目的としたものです。

当日は、土曜日の午後という時間帯でしたが、多くの来場者を迎えることができ、４人のリーディング大学院生により、以下のプログラム説明及び研修報告が行われました。

１）リーディング大学院プログラム説明
　　発表者：２期生 宇津 美秋
２）Winter Camp 2016 最優秀賞
　　『Thomson's Gazelle』
　　発表者：２期生 中川 誠太郎
３）WHO研修
　　発表者：３期生 庄司 竜麻
４）NIH研修
　　発表者：３期生 中川 拓也

いずれの説明も素晴らしく、多くの来場者にリーディング大学院の活動内容を伝えることで、興味を持って頂けることが出来ました。今回の説明会をきっかけに、高い志を持ったリーディング大学院志望者が増加することを期待しています。

山本　　雅

〈所属〉細胞治療内科学

●研究内容

遺伝性早老症ウェルナー症候群における骨格筋の解析を通じたサルコペニア関連遺伝子の同定とその機能解析

●目標

筋肉量の低下はフレイリティを引き起こし生活の質を大きく損ないます。さらに、筋肉量低下が死亡率を増加させることが明らかになりました。そのため、高齢化が進む先進国において、筋肉の研究はますます重要になってくると考えています。早老症のひとつであるウェルナー症候群の骨格筋解析を通じて筋肉の代謝の研究に携わり、将来の治療につながる成果を出せるように努力していきます。

●一言

LGSの一員になれたことを誇りに思います。他では経験できないような様々な分野で活躍されている先生方から学ぶ機会が多くあるので、積極的に参加し可能な限り多くを吸収していきたいと思います。

馬場　雄介

〈所属〉細胞治療内科学

●研究内容

動脈硬化並びに心筋傷害の免疫調節における転写因子Tcf21の機能解析

●目標

LGS学生として、新たな発見を得る努力をすると同時に、それを現場に活かせる方策を考え、臨床に還元できるよう行動したいと考えています。代謝疾患による合併症はわが国の死亡原因の多くに関連しており、心血管合併症の発生に関わるメカニズムの探索を通じて、社会の多くの人にとって有益となる仕事を行いたいと思います。そのために、様々な分野の学生が集うLGSプログラムで多くの知見を得られるよう努力したいと思います。

●一言

学内・学外を問わず多くの人と交流する機会が得られる環境を活かして、自身の成長につなげたいです。

山口有輝子

〈所属〉先端応用外科

●研究内容

上部消化管内視鏡スクリーニング検査による新規病変検出率の向上

●目標

現在消化器外科医として市中病院で研鑽を積んでおりますが、本年リーディング大学院への入学が叶いました。残念ながら具体的な研究内容は始められていませんが、癌の早期発見早期治療の重要さを日々の診療で痛感しております。これからの研究で効果的なスクリーニング検査の手法を考案し、癌の根治率に貢献することが目標です。また、このプログラムを通して知見を会得し、研究者としての幅を広げていきたいと思います。

●一言

素晴らしい指導教官の先生方、先輩、同輩に恵まれ、日々とても良い刺激を受けています。結果が出せるよう、努力していきます。

神﨑　洋彰

〈所属〉消化器・腎臓内科学

●研究内容

決まっておりません

●目標

大学院の講義を通じて、幅広い領域の治療学、有効なプレゼンテーション法、研究や論文作成に必要な統計学を学びたいです。そして、私は苦手なので、最も力を入れなければならない、世界共通語である英語でのコミュニケーション能力の向上に努めていきたいと思います。最終的には、消化器内科領域の治療につながる研究を行っていく上での、土台が作れればと思います。

●一言

LGS所属学生としての活動は大学院２年目からとなります。遅れを取り戻すため必死に頑張ります。

一色　佑介

〈所属〉細胞治療内科学

●研究内容

正常造血および造血器疾患の発症におけるPolycomb repressive complex（PRC）1.1の役割と機能解析

●目標

血液疾患の一部では新規治療薬の登場により劇的に予後が改善した。一方でその他多くの血液腫瘍は未だに難治性であり、既存の治療のみでは治癒が得られない場合も多く経験される。劇的に予後が改善した疾患の多くは、特異的な遺伝子異常とその分子メカニズムの解明が創薬につながっており、発症メカニズムを解明することは非常に重要である。近年血液腫瘍の発症にエピジェネティックな異常が関与していることが注目されており、ヒストン修飾を担うポリコーム遺伝子群の機能を解明することで、これらが血液腫瘍の発症に与える影響を解明していきたい。

●一言

LGSでは他分野の先生方と交流して幅広い知識を得ること、そして英語力を向上させることを目標にしていきたいと思います。

馬　　敏

〈所属〉千葉大学社会精神保健教育研究センター・病態解析研究部門

●研究内容

統合失調症の病態解明及び予防法・治療法の開発

●目標

統合失調症やうつ病などの精神疾患では、日本だけではなく、世界でも大きな社会問題になっている。しかし、これらの精神疾患の治療には、根本的な治療薬が無いのが現状である。それ故、統合失調症やうつ病などの代表的な精神疾患の病態解明と予防薬・治療薬の開発が必要である。私の研究が完成すれば、これまで不明であった統合失調症の分子機構が明らかになり、統合失調症の新規予防法・治療法の開発が期待されています。将来、統合失調症の病態解明だけでなく、新規治療薬のターゲットとして期待できると思います。

●一言

研究は奇妙な世界だと思います。LGSで活躍している皆様とともにきっと良い研究成果を取得できると思います。

栗林和華子

〈所属〉細胞分子医学

●研究内容

造血幹細胞のエイジング

●目標

近年、エピゲノム異常は様々な造血器腫瘍において報告されており、その一因には加齢に伴う造血システムの変化があると考えられている。しかし、加齢に伴い発症頻度が上昇する造血器腫瘍の発症に対して、加齢に伴う造血幹細胞の変化がどのように関与するのかは未だ十分に解明されていない。これらの関係性を明らかにすることで、腫瘍形成の原因を探りたい。

●一言

私は卒業後海外の研究室で研究活動を行うことを目指している。多様な経験を積める本プログラムに参加することを通じて、幅広い知識を持った研究者へ成長したい。

古矢　裕樹

〈所属〉アレルギー・臨床免疫学

●研究内容

葉酸代謝拮抗剤であるメトトレキサート（MTX）は、関節リウマチ（RA）治療のアンカードラッグと位置付けられているが、ヘルパーT細胞におけるMTXの標的分子の詳細は不明である。本研究室ではMTX、生物学的製剤の有効症例のRA患者のヘルパーT細胞で発現変動する遺伝子を網羅的に探索し、癌抑制遺伝子であるp53ファミリーに属するp63がMTX治療後に特異的に低下することを見出した。そこで、私の研究内容として1）p63のヘルパーT細胞分化における役割を明らかにし、2）p63の自己免疫疾患発症における役割を検討し、p63を標的としたRA治療の基盤を構築することを目的とする。

●目標

2012年に千葉大学医学部を卒業後、千葉市立青葉病院、千葉大学医学部附属病院にて初期臨床研修を行い、その後、後期研修医として成田赤十字病院の内科にて研修を行いました。2016年に千葉大学大学院博士課程に入学し、免疫疾患の専門診療と免疫学の基礎研究をスタートしました。過去に研究に携わったことはありませんが、リーディング大学院プログラムという恵まれた環境で研究に関われることを嬉しく思っています。日々努力し成長していきたいと思います。

●一言

わからないことだらけですが楽しみながら頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

LGS学生の顔合わせ

LGS３期生　熊谷 仁

2016年４月５日（火）、本学医学部２階大カンファレンスルームにて、本プログラム（LGS）４期生に対する新入生ガイダンスが開催され、４期生８名を含む、LGS学生及び関係教員らが参加した。
斎藤教授の開会の挨拶から始まり、シラバスや履修案内についての説明が行われ、２期生の宇津さんから本プログラムについて、菅波助教から治療学科目の履修について、八木特任准教授からRIKENサマープログラムについて詳しく説明された。
説明の後、４期生には、合格通知書と白衣、パソコンが授与された。
また、２期生の李 惠子さんと中川 誠太郎さんの２名が優秀大学院学生に選ばれ表彰された。
その後、１、２、３期生を含めた全LGS学生及び関係教員らの集合写真撮影に続き、海外研修等の発表会が行われた。

１）RIKENサマープログラム　（３期生：薄田 健史）
２）USAカリフォルニア研修　（２期生：三田 恭義）
３）WHO研修　（３期生：庄司 竜麻）
４）ベルリン免疫シンポジウム（３期生：菅野 敏生）
５）NIH研修　（３期生：中川 拓也）
６）Winter Camp（２期生：井出 真太郎）
７）学生会議　（２期生：李 惠子）

最後に、４期生の自己紹介が行われ、本プログラムに対する期待と熱意のあふれる挨拶が続いた。
新たな仲間を迎えて、本プログラムのさらなる盛り上がりを確信した新入生ガイダンスとなった。